



## ■善光寺講座 『論語からのお話』

東郷先生の論語講座。二年目に入り益々意気盛ん。日常茶飯事、いまの問題や課題について明解に「道」を通じてお示し下さる先生の情熱に引かれるように受講者も回を追うごとにさらに増加しています。

「子曰く、憤せざれば啓せず、悱せざれば発せず。一隅を挙げて三隅を以って反せざれば、則ち復びせざるなり。」

受講者もお互いに毎日の生活の中に活かせる教えを自己の啓発につとめ吸収します。賑々しい会です。

老いも若きも幼きも、そして現役ビジネスマンもウーマンも生き方、考え方の視点を変えてみてはいかがでしょう。

どうぞお越し下さい。お待ちしております。

善光寺講座 「論語からのお話」

（参加者からのお便り）

▽口野 健太郎さん

この度は『成寿』への投稿の機会を頂戴し、真に光栄に存じます。東郷先生の善光寺講座「論語からのお話」には平成二十五年より夫婦で参加しております。私は会社で台湾・韓国関係の仕事をしており、以下の理由から論語の勉強を始めました。

- ・ 仕事には法務、経理だけではなく、倫理的な判断基準が必要です。
- ・ 論語を学ぶことで台湾人、韓国人の考えの理解に繋げようと思ったこと。

また、台湾人の妻は、子供の頃から馴染のあ

った漢字に出逢い、『論語』を通じて、一層日本語や日本社会への理解を深めています。

講座の一年目は日々、「論語」から学んだ啓発の心得で仕事に取り組み、目の前の問題について考え抜き、判断し実行する習慣が身に付きました。

しかし、仕事の多忙さから、周りが見えなくなることもあったことを省みて、二年目は、限りなく「人の為に謀りて忠ならざるか」と、帰宅する電車の中で毎日自問自答しております。これが「学習」です。

東郷先生は論語の解釈のみならず、日々何をすればよいのかを平易な言葉で説明して下さい、その実践を重ねることで、生活や仕事による変化があらわれてきます。

「人の為に謀りて……」という難解に聞こえますが、他人を思い遣る気持ちがあったか、

相手に笑顔で挨拶ができていくかと、いうことなのです。簡単だけど難しい。意識するのとはしないのでは結果が違ってきます。日々刻々が「論語」の実践です。

忙しくても必ず挨拶をすると決めれば、自ずと同僚との仕事の進み具合、体調、精神状態にも関心が向かうようになってきました。論語は、会社で中間管理職になった私に、上と下との板挟みから抜け出させて、良い変化をもたらしてくれたと実感しております。

二年間、論語の会に参加して改めて思うのは、人間は忘れる生き物だということです。

しかし、月に一回論語の会に参加して、忘れては思い出しを繰り返すことで、徐々にではありませんが、私のような者にも進歩があったのではないかと感じております。

東郷先生は素読そとくと暗誦、浮かんだことはとに

かく実行してみるのが大事とくり返されま  
す。また、ユーモア溢れるお話は面白く、参加  
者の皆様からも毎回刺激を頂いております。今  
後とも学習を続けて参りますので、宜しくお願  
い申し上げます。

#### ▽高杉 富美子さん

善光寺様とは平成十八年に仏縁をいただきま  
して、自分が変わってゆく大切な切っ掛けとな  
りました。それまで「生きてきた」と思ってい  
ましたが、漸く「生かしていただいている」こ  
とに気づき、嬉しく思っています。正に「一期  
一会」でございました。お彼岸法会、お盆、新  
年祈祷会と参加させて頂き、尊いご法話をお聞  
きしてゆくうちに、『般若心経』の尊さや、お  
供えの意味、ご先祖様と亡き人の追善供養のこ  
と、父母へ感謝すること、あらゆる精霊に感謝

すること……などを心新たに知りました。

平成十九年から写経会にも参加させて頂き、有り難い事です。さらに信仰心、仏心を育むことができたと思う日々でございます。ご法話で優しくお導き下さる方丈様、各寺の住職様、先生方に深謝の気持ちでいっぱいです。

そんな折り柄、東郷先生の講座が始まるお知らせに飛びつき、難しい論語なのに、身近な問題を次々解答し方向をお示しくださって、感動しました。嬉しかったです。

私は何も知りません。それでも、東郷先生のお話を聞くうちに、少しずつ分かってきて、周囲が明るく開け、明日起きるのが楽しみにになりました。『論語』は人としてどうあるべきか大切な事ばかりです。人生は悩み多く否定的な思いを持つこともあります。失敗もあります。

東郷先生は忠恕と仁の心を明解に話され、笑いながら聞いて納得できたのです。そして反省

を繰り返す事をよく話されます。己を尽くすは忠という。人の喜ぶ事に心を遣うは恕。誠心誠意相手を思うは忠恕だと。「人の話は自分の概念や観念を押しつけず聞く。相手の立場に立つて考えることができたか」と。自分を見つめる大切さ。

「学びて時に之を習う」とかく学んだことは実行する。日常生活に活かさなければと思っています。先生は熱意を持って話されます。

学習と朋友が大切であることは私でも理解できるといふようになりました。

先日、娘から「お母さんは聞く耳を持つてきたね」と言われました。一歩前進したのかも、と嬉しかったです。

東郷先生の情熱に少しでも近付けるように、経験を通し広い視野で、残りの人生、論語の教え、ご法話、写経を心の支えとして参ります。

私に老いる暇はありません。善光寺様、東郷先

生、今後ともご指導下さいますようお願いいたします。

合掌

▽吉羽ふじ子さん

「論語」に学ぶ

善光寺の方丈さんからご依頼いただいて、筆をとらせていただきました。

東郷先生の熱弁とユーモアのあるお話にどんどんと論語の世界へと引き込まれてしまいました。素晴らしい技術や科学が発達した文明社会の現在でも、二千五百年も前の思想家孔子の「精神と心」はいまにも息づいていて、真に迫り、様々な事柄を説明していくのです。

豊かに生きる人生の知恵を与えてくれるのです。一例として自分でまとめました。

学習とは、学んだことを機会あるごとに実行する。

あたかも、ひなが羽の白い間にバタバタと巣立ちの練習を重ね、やがて大空に飛んでゆくが如く。

←  
くり返し、習熟体得し人間として成長する。

←  
そんな自分の存在があれば友もでき、私もよろこびに遇することができる。

それこそ「学習」の効果だと教えていただきました。

子曰く

学びて時にこれを習う

またよろこばしからずや

朋、遠方より来たる有り

また楽しからずや

人しらずしていきどおらず

また君子ならずや

論語では、このように美しい詩で述べて下さっています。

最後の一行は相手が自分を認めてくれなかったり、理解してくれなくても相手を怨んだり、責めず、憎まないのが立派な人であると言っています。どうすればこんな境地に至れるのかわかりません。しかし、教えられる方向に自分を進めたいのです。私には目標があります。

目標に向かって一生懸命やりとげ、幾つもの山を乗り越え、快感と自信につないで参ります。きつと、自分を強くすると何か先が見えてきます。

「恕の心」とは、真心を持って相手の立場に立ち、やさしさと思いやりで尽くし、また自分がしてもらいたくない事は慎むということです。

孔子の仁、釈迦の慈悲、キリストの愛、ソクラテスの義、すべて神、聖人、仏、哲人様は共通した「恕心」の持ち方を教えて下さっているのも発見でした。心がわかれば難しくないということも大発見です。それぞれ畏敬を感じながら従ってゆきたいと願っています。

聖徳太子の十七条の憲法「和を以て貴しとなす」の名言も論語からだを知って目からウロコです。和だけではうまくいかない、礼（秩序）が加わって節度が保たれる。江戸時代、幕府を支えた教育、学問などが我が国に深く根付いていったということを論語を学んで知ることができました。

書きたいことは山ほどありますが、いろいろな心がけ生活するように努力していきたいと念じています。

そして一歩前に出て挨拶、返事、あと始末を尽くし、自分を力強くして参ります。

さあ、皆様、「論語」の世界に誘われて学び、磨き、自分を見つめ直してみましよう。先生のお話は格別です。とにかくためになります。笑いこけ、面白いです。楽しいです。時間はあっという間に飛んでしまいます。先生は、「過去と他人は変えられない。しかし、未来と自分は変えられる」と言われます。私もわかりかけてきました。

《今後の予定》平成二十七年

▽一月十二日(月)	▽七月五日(日)
▽二月八日(日)	▽八月はお休み
▽三月八日(日)	▽九月十三日(日)
▽四月十二日(日)	▽十月十二日(月)
▽五月十日(日)	▽十一月八日(日)
▽六月十四日(日)	▽十二月十三日(日)

毎月一回、三時から四時(一時間)



